

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第20週 （5月14日～5月20日）

★お知らせ

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第19週の4.93から第20週には5.20と横ばいです。県全域から報告があり、須崎、幡多で減少していますが、安芸、中央西では増加しています。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス6例、ロタウイルス2例、細菌のカンピロバクター属菌やサルモネラ属菌、病原性大腸菌を原因とする胃腸炎6例の他、「感染性胃腸炎増多中」の報告があります。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも9例の報告があることから引き続き注意が必要です。

乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。ノロウイルス性胃腸炎は、通常1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあることから注意が必要です。

＜予防方法＞ 感染予防の基本は手洗いです

人への感染経路は、主に経口（食品、糞便）です。食品を除けば大半が手に付着したウイルスが口に入って感染します。感染防止策は「手洗い」が基本ですので帰宅時・調理前・食事前・トイレの後に石けんを使ってよく手を洗いましょう。また、感染した人の便や吐物には、大量のウイルスが含まれていますので直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認した上で使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）また、調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第19週の1.67から第20週には2.07と2週連続で増加しています。県全域から報告があり、安芸で急増、須崎、高知市、中央東で増加しています。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも25例の報告があることから注意が必要です。

この病気は、高熱・咽頭痛・おう吐を主症状とする細菌性の感染症で、熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌・全身に発赤が広がる猩紅熱といわれる全身症状を呈します。また、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの合併症を起こすこともあります。

＜予防方法＞ 人から人への飛沫感染・接触感染が主です

人と接触する機会が増える時期に感染が起こりやすく、家庭や学校など集団での感染も多くみられます。うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○夏型感染症（咽頭結膜熱（プール熱）・手足口病・ヘルパンギーナ）に気を付けて！

夏型感染症は例年、6月頃から報告数が増えはじめ7月頃にピークを迎えることから、これからの時期、注意が必要です。

咽頭結膜熱の定点医療機関当たりの報告数は、第19週の0.23から第20週は0.20と横ばいで、幡多で急減していますが、高知市で急増しています。定点医療機関からのホット情報ではアデノウイルスによる感染症が10例報告されています。

また、病原体検出情報で、第17週に幡多から搬入された検体から Adenovirus 8 が1例、第19週に高知市から搬入された検体から Adenovirus 2 が1例、須崎から搬入された検体から Adenovirus 5 が1例検出されています。

手足口病の定点医療機関当たりの報告数は、第19週の0.23から第20週には0.67と急増しています。幡多、須崎、中央東で急増、中央西で増加しています。

病原体検出情報では第17週に幡多から搬入された検体から Enterovirus 71 が1例検出されています。

＜予防方法＞ これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けるなどして、感染予防に努めてください。

○百日咳に気を付けて！

第20週に百日咳の発生届けが須崎福祉保健所管内から6例報告されました。2018年にはいって高知県内の百日咳の届出は合計81例となっています。

百日咳は、感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染します。そのため、比較的軽い症状の患者や感染しても症状が軽いため百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することも考えられることから注意して下さい。

＜予防方法＞ 飛沫感染予防には、手洗い、咳エチケットです

- ・生まれた直後から百日咳にかかる可能性があります。咳が続いている人は、百日咳の可能性も考えて、赤ちゃんに注意して接しましょう。
- ・外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさけ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- ・定期予防接種があります。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

●国立感染症研究所 百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis_guideline_180425.pdf

○麻疹（はしか）患者が増加中ですのでご注意ください！

2018年3月23日、沖縄県内を旅行中の台湾からの旅行者が麻疹と診断されたと報告がありました。以降、沖縄県内では麻疹患者の発生が続いています。また、沖縄県内で感染した方が、他の都道府県において報告されるなど、他県への広がりも報告されています。

県民の皆様にお願い

- 1、麻疹は予防接種により感染リスクが少なくなる疾患です。定期接種の対象者は接種対象期間中にかかりつけ医に相談し、接種を受けることが重要です。
- 2、麻疹を疑う症状（発熱、咳、鼻汁、その後発疹等）があった場合は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻疹を疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い受診し、周囲に感染を拡げないようにご注意ください。

各医療機関の皆様にお願い

- 1、発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、麻疹の可能性も考慮し、渡航歴・旅行歴・麻疹含有ワクチンの接種歴・麻疹罹患歴を確認するとともに、感染拡大予防策の徹底をお願い致します。
- 2、麻疹（疑い例を含む）診断時には管轄の保健所又は福祉保健所までご連絡をお願い致します。

麻疹について

麻疹は空気感染する感染力の強いウイルス感染症です。

潜伏期間は10～12日間で、咳、鼻水、くしゃみ等の風邪様症状が出現、2～4日ほど続きます。その後、39度を超える高熱と発疹が出現します。発疹の出現する1日から2日前には頬の粘膜（口の中の頬の裏側）にやや隆起した1mm程度の白色の小さな斑点（コプリック班）が出現します。合併症を引き起こさなければ、7～10日後には回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹りやすく、また、体力等が戻ってくるには1ヶ月程度を要することもあります。

沖縄県衛生研究所：

<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/measles.html>

国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

風しん・麻疹（MR）ワクチン接種の考え方

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/MRvaccine_20180417.pdf

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

咳エチケット

- ★ 咳やくしゃみなどの呼吸器症状がある方は、必ずマスクを着用しましょう。
- ★ 咳やくしゃみをするときは、ハンカチやティッシュで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぎましょう。
- ★ 使用したティッシュなどは、ゴミ箱に捨てましょう。
- ★ 咳やくしゃみをした後は、石鹸を使用して、よく手を洗いましょう。

☆山や草むらでの野外活動の際にはダニに注意

第 20 週に日本紅斑熱の発生届けの報告が安芸福祉保健所と中央西福祉保健所から、各 1 例
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の発生届けの報告が幡多福祉保健所から 1 例ありました。

日本紅斑熱や SFTS (重症熱性血小板減少症候群) は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型 (吸血前で 3~4mm) のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります (全てのマダニが病原体を持っているわけではありません)。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤 (有効成分：ディートあるいはイカリジン) を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5~10%	防除用 医薬部外品	1~2時間	6ヶ月未満児 には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を 腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製 剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	~6時間		
	高濃度製 剤 15%	防除用 医薬品	6~8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋
※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

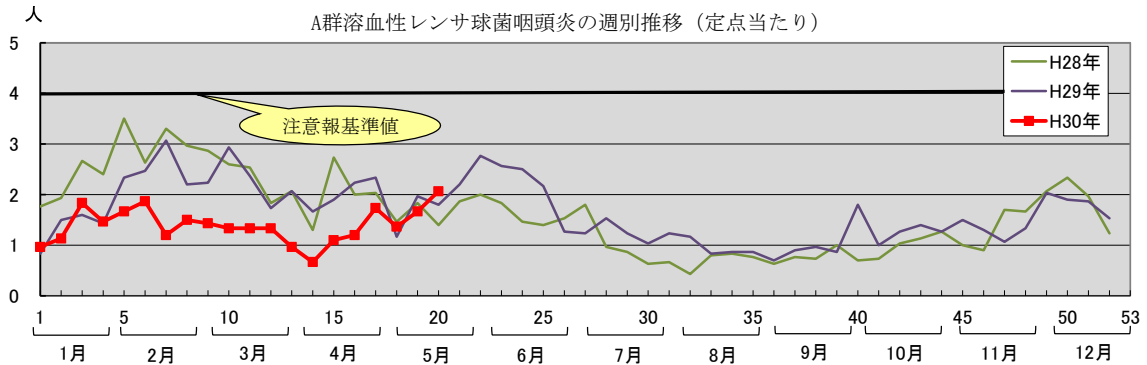
野山に入ってからしばらくして (数日~数週間程度) 発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと (ダニに咬まれたこと) を申し出て下さい。

SFTS はマダニからの感染が一般的ですが、最近の研究で、SFTS ウイルスに感染し、発症している野生動物やイヌ・ネコなどの動物の血液から SFTS ウイルスが検出されています。このことは、SFTS ウイルスに感染している動物の血液などの体液に直接接触した場合、SFTS ウイルスに感染することも否定できませんので、動物に触った後は必ず手洗いをするなどの感染予防に努めましょう。また、体調不良の動物と接触した後、発熱等の症状が出た時は、早めに医療機関を受診してください。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) に関する Q&A (厚生労働省)
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第20週：2.07 （注意報値：4.00 警報値：8.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.07（前週：1.67）と増加しています。安芸 1.50（前週：0.50）で急増、須崎 3.50（前週：2.50）高知市 3.45（前週：2.73）中央東 0.57（前週：0.43）で増加しています。



★病原体検出情報

前週以前に検出

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
13	カポジ水痘様発疹症	39℃,水疱,発疹,	4ヶ月	男	中央東	Herpes simplex virus 1
17	—	41℃,口内炎,	1	男	幡多	Adenovirus 8
17	手足口病	37℃,	3	男	幡多	Enterovirus 71
17	—	39℃,発疹,口内炎,	7	女	高知市	Herpes simplex virus 1
19	気管支炎	39℃,咳嗽,気管支炎,	4ヶ月	男	高知市	Adenovirus 2
19	—	40℃,	2	男	須崎	Adenovirus 5
19	突発性発しん	40℃,発疹,	1	女	須崎	Cytomegalovirus
19	突発性発しん	40℃,下痢,肺炎,発疹,	1	男	幡多	Cytomegalovirus
19	不明発疹症	42℃,下痢,腹痛,発疹,	7	女	須崎	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	46	60歳代 男	高知市
		1		90歳代 女	幡多
4類	日本紅斑熱	1	5	60歳代 女	安芸
		1		80歳代 女	中央西
	重症熱性血小板減少症候群	1	2	60歳代 男	幡多
5類	百日咳	1	81	20歳代 女	高知市
		1		0~4歳 女	須崎
		1		5~9歳 男	
		1		5~9歳 女	
		1		5~9歳 女	
		1		10~14歳 男	
		1		10~14歳 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	ロタウイルス胃腸炎 2 例 (2 歳男、18 歳男)
中央東	早明浦病院小児科	感染性胃腸炎増多中 (原因菌等不明)
	おひさまこどもクリニック	アデノ咽頭炎 2 例 (11 ヶ月男、1 歳女)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 2 例 (8 ヶ月女、1 歳女) ノロウイルス 1 例 (9 ヶ月男)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 3 例 (1 歳) カンピロバクター腸炎 1 例 (16 歳) サルモネラ O-4+病原性大腸菌 O-1 腸炎 1 例 (3 歳) 病原性大腸菌 O-25 腸炎 1 例 (12 歳) 病原性大腸菌 O-6 腸炎 2 例 (1 歳、30 歳)
	細木病院小児科	ノロ 3 例 (2 歳男、2 歳男、3 歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	水痘 1 例 (9 歳男：ワクチン 1 回接種済み) 手足口病 1 例 (1 歳女) 溶連菌感染症 5 例
中央西	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 1 例 (1 歳男)
	くぼたこどもクリニック	感染性胃腸炎 2 例 (7 ヶ月男：須崎市、5 歳女：仁淀川町)
須崎	もりはた小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1 例 (12 歳女) 感染性胃腸炎 3 例 (カンピロバクター 1 例：11 歳男、 ノロ 2 例：3 歳、4 歳) 百日咳 12 例 (Lamp 法陽性)
幡多	さたけ小児科	hMPV 2 例 (2 歳女、3 歳男) アデノ 1 例 (2 歳女) ヘルペス歯肉口内炎 1 例 (2 歳女) 水痘 1 例 (4 歳男：ワクチン 2 回接種済み)
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 陽性 2 例 (1 歳男、3 歳女)
	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 3 例 (1 歳男、1 歳女、2 歳女)

★全国情報

第17号 (4月23日～4月29日)

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核344例
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症28例、パラチフス1例
- 4類感染症：E型肝炎5例、A型肝炎16例、重症熱性血小板減少症候群2例、チクングニア熱1例、
つつが虫病3例、デング熱2例、日本紅斑熱6例、レジオネラ症12例
- 5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例
急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例
後天性免疫不全症候群13例、侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例
侵襲性肺炎球菌感染症69例、水痘 (入院例に限る) 4例、梅毒68例、
播種性クリプトコックス症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳78例、
風しん1例、麻しん12例
- 削除予定：バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例
- 報告遅れ：E型肝炎5例、エキノコックス症4例、つつが虫病1例、レジオネラ症2例
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症14例、急性脳炎4例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、水痘 (入院例に限る) 3例、梅毒53例、
播種性クリプトコックス症2例、百日咳36例、麻しん4例

第18号 (4月30日～5月6日)

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核154例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症15例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎6例、重症熱性血小板減少症候群3例、つつが虫病1例、デング熱1例
日本紅斑熱1例、マラリア1例、レジオネラ症12例

5類感染症：アメーバ赤痢6例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症9例
急性弛緩性麻痺3例、急性脳炎4例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群3例
侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性肺炎球菌感染症46例
水痘（入院例に限る）4例、梅毒29例、播種性クリプトコックス症3例、破傷風4例
百日咳52例、風しん1例、麻しん15例

削除予定：麻しん1例

報告遅れ：E型肝炎4例、エキノコックス症1例、重症熱性血小板減少症候群1例、日本紅斑熱1例、
レジオネラ症4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症10例、急性脳炎8例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、水痘（入院例に限る）7例、梅毒81例、
播種性クリプトコックス症1例、百日咳58例、風しん1例、麻しん6例、
薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第20週 平成30年5月14日(月)～平成30年5月20日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第20週							計	前週	全国(19週)	高知県(20週末累計)		全国(19週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/5/20				H30/1/1～H30/5/13			
インフルエンザ	インフルエンザ		2	3					5 (0.10)	5 (0.10)	3,009 (0.61)	20,838 (434.13)	1,750,289 (354.17)			
小児科	咽頭結核熱						1	6	7 (0.23)	(0.00)	1,016 (0.33)	79 (2.63)	17,022 (5.40)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	3	30	1	5	10	50 (1.67)	41 (1.37)	4,520 (1.45)	773 (25.77)	131,124 (41.56)				
	感染性胃腸炎	11	51	46	14	9	17	148 (4.93)	122 (4.07)	11,560 (3.70)	2,181 (72.70)	279,433 (88.57)				
	水痘		1	5	1		2	9 (0.30)	6 (0.20)	893 (0.29)	88 (2.93)	16,471 (5.22)				
	手足口病			3	2		2	7 (0.23)	6 (0.20)	894 (0.29)	175 (5.83)	10,362 (3.28)				
	伝染性紅斑		1					1 (0.03)	(0.00)	292 (0.09)	18 (0.60)	4,395 (1.39)				
	突発性発疹	1	6	9	1	2		19 (0.63)	14 (0.47)	1,080 (0.35)	163 (5.43)	21,077 (6.68)				
	ヘルパンギーナ				1		1	2 (0.07)	1 (0.03)	110 (0.04)	10 (0.33)	1,079 (0.34)				
	流行性耳下腺炎						1	1 (0.03)	1 (0.03)	361 (0.12)	16 (0.53)	8,182 (2.59)				
	RSウイルス感染症		4					1	5 (0.17)	1 (0.03)	703 (0.23)	177 (5.90)	22,550 (7.15)			
眼科	急性出血性結核炎							(0.00)	(0.00)	15 (0.02)	(0.00)	227 (0.33)				
	流行性角結核炎			1				1 (0.33)	(0.00)	364 (0.53)	12 (4.00)	8,070 (11.58)				
基幹	細菌性髄膜炎							()	(0.00)	8 (0.02)	2 (0.25)	164 (0.34)				
	無菌性髄膜炎							()	(0.00)	6 (0.01)	1 (0.13)	196 (0.41)				
	マイコプラズマ肺炎			2				2 (0.25)	(0.00)	39 (0.08)	28 (3.50)	1,378 (2.88)				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.13)	(0.00)	2 (0.00)	11 (1.38)	69 (0.14)				
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			1				1 (0.13)	(0.00)	174 (0.36)	20 (2.50)	2,328 (4.86)				
計(小児科定点当たり人数)	13 (6.50)	68 (9.61)	101 (8.64)	20 (6.66)	17 (8.50)	40 (8.00)	259 (8.39)			25,046	24,592 (556.78)	2,274,416				
前週(小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	57 (8.00)	86 (7.77)	14 (4.66)	11 (5.25)	13 (2.60)		197 (6.50)								

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第20週							計	前週	全国(19週)	高知県(20週末累計)		全国(19週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/5/20				H30/1/1～H30/5/13			
インフルエンザ	インフルエンザ		0.18	0.19					0.10	0.10	0.61	434.13	354.17			
小児科	咽頭結核熱						0.50	1.20	0.23	0.00	0.33	2.63	5.40			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.43	2.73	0.33	2.50	2.00	1.67	1.37	1.45	25.77	41.56				
	感染性胃腸炎	5.50	7.29	4.18	4.67	4.50	3.40	4.93	4.07	3.70	72.70	88.57				
	水痘		0.14	0.45	0.33		0.40	0.30	0.20	0.29	2.93	5.22				
	手足口病			0.27	0.67		0.40	0.23	0.20	0.29	5.83	3.28				
	伝染性紅斑		0.14					0.03	0.00	0.09	0.60	1.39				
	突発性発疹	0.50	0.86	0.82	0.33	1.00		0.63	0.47	0.35	5.43	6.68				
	ヘルパンギーナ				0.33		0.20	0.07	0.03	0.04	0.33	0.34				
	流行性耳下腺炎						0.20	0.03	0.03	0.12	0.53	2.59				
	RSウイルス感染症		0.57				0.20	0.17	0.03	0.23	5.90	7.15				
眼科	急性出血性結核炎							0.00	0.00	0.02	0.00	0.33				
	流行性角結核炎			1.00				0.33	0.00	0.53	4.00	11.58				
基幹	細菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.02	0.25	0.34				
	無菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.01	0.13	0.41				
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.25	0.00	0.08	3.50	2.88				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13	0.00		1.38	0.14				
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			0.20				0.13	0.00	0.36	2.50	4.86				
計(小児科定点当たり人数)	6.50	9.61	8.64	6.66	8.50	8.00	8.39				556.78					
前週(小児科定点当たり人数)	8.00	8.00	7.77	4.66	5.25	2.60		6.50								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
 〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
 TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869
 この情報に記載のデータは2018年5月21日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。